

ブラジル福岡県人会

南 美陽 ソフィア

九州スクールオブビジネス メークアップアーティスト科

### 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

私はブラジルのサンパウロ市から来ました。サンパウロはとても賑やかでブラジル最大の都市です（推定人口11,821,870人）。そして、国内外に対して、重要な文化的、経済的、政治的影響力を持っています。サンパウロは他国からの移民がとても多く、その中でも特にイタリア人や、ポルトガル人、日本人、スペイン人、レバノン人がとても数が多いです。

ブラジルは広いので野菜や果物や肉や魚がたくさんあります。そして、ブラジルの料理はとても美味しく、いろいろな味と色があります。サンパウロでは有名な料理はヴィラダパウリスタです、それはお米とツツ・デ・フェイジョン（豆）、ポークチョップ、ベーコン、ケールとバナナフライがすべて一つのお皿にのった料理です。

母国で両親と姉と暮らしています。姉は二人いますが一人は結婚してオーストラリアに住んでいます。私たちの名前は日本とブラジルの四季から名付けられました。なつみ（ブラジルの夏）、ちあき（ブラジルの秋）、みはる（日本の春）です。私たち姉妹の中には、「冬」の名前がないので、私のかわいいトイプードル犬の名前がゆきちゃんです。そして元気な18才のねこもいます。サナちゃんです。私は末っ子でみんなからかわいがられています。姉たちととても仲がいいです。私の両親はいつも一生懸命働いています。両親のおかげでこの素晴らしい人生を送ることができているので、私は彼らにとっても感謝しています。私は家族と一緒にいるのが大好きです。外食もみんなで行きます。クリスマスとお正月には家族と親戚みんなが集まってパーティーをします。ごちそうもたくさんあってとても楽しいです。

サンパウロは危ない町です。暴行が多いので夜になると通りを歩きません。家と建物も高い塀があります。ですから日本に着いたら驚きました。とても安全で家の塀も低いです。そして日本人は話をしているとき、家のドアを開けたままの人たちもいます。すごいと思いました。いつかブラジルもこんな安心な場所になるには、どうしたらいいかと考えています。

後は果物や野菜や肉の値段にびっくりしました。高くて「今年はあまり肉をたべられないな、そして日本の半分のスイカの値段で母国では1個が買えるな」と思いました。でもパソコンや車、洋服といった家電や生活用品はブラジルより安いです。それは税率のせいだと思います、ブラジルは税金がものすごく高いです。

私は2012年にブラジル連邦大学の栄養学部を卒業しました。大学はサントスと言う町にあります。海の前にあり、サンパウロから1時間かかります。私は、栄養学部を卒業しましたが、卒業後は、メイクアップアーティストとして働いていました。ファッションショーや写真撮影や結婚式などで働いていました。

ブラジルのメイクアップの導入は70年代に始まり、21世紀に市場で成長し始めました。日本では既に古墳時代からの歴史を持ち、現在では革新的な技術を持ち化粧品市場では世界有数の国の1つだと思います。福岡県移住者子弟留学生として、自分の持っているヘアメイクの技術を専門的にさらに向上できるよう学びたいと思います。そして日本文化を学び体験したいと思います。

福岡に来てから楽しい思い出をたくさん作りました。他の国の留学生たちとそして自協学舎の日本人たちと友達になって新しい場所を散策したり、互いに助け合ったりします。そのおかげで寂しいと感じる事はないです。この二ヶ月ではどんたく祭りを見に行ったり、河内藤園や海の中道水族館やドイスラゴスブラジルレストランや天神や神社に行きました。

家族会でもいろいろなイベントがありました。タケノコ狩りや蛍見学に行ったり、バーベキューやホームステイなどがあって新しいことを学べ楽しかったです。

福岡で専門学校九州スクールオブビジネスのメイクアップアーティスト学科で勉強をしています。主に、メイクの授業やヘアアレンジやネイルや皮膚について学んでいます。それらに加えて、マナーやビジネスやペン字やエクセルやパーソナルカラーも学んでいます。

担任の先生は渡邊先生です。彼女はとても優しく私のことを思ってくれています。でも難しい言葉と漢字が多く、試験も100%正解しないと科目に受からないのです。ストレスがたまるととても困っています。夏休みにオープンキャンパスがあります。もっと勉強したいと思うので夏休みも勉強をしに学校に行きます。クラスは8人です。生徒たちはみんな優しくいつも私を助けてくれます。本当に感謝しています。

これからも頑張って日本語と日本の文化をもっと勉強して、メイクアップアーティストとして技術を向上させたいです。そしてブラジルのメイクアップスタイルと日本のスタイルを合わせて自分のスタイルを作りたいと思います。留学生たちと家族会の皆さんたちと国際交流センターの皆さんたちとたくさんいい思い出を作りたいです。



ブラジル福岡県人会  
行徳 さゆり ミリア

福岡大学スポーツ健康科学部

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

私は平成26年度福岡県費留学生の行徳さゆりミリアです。南米ブラジル、サンパウロ州、モジダスクルーゼス市から来ました。24歳の8月7日生まれです。

私の家族は4人家族です。父、行徳年晃ミルトンは銀行のソフトを開発している会社に勤めています。とても厳しくていつもケンカしているお父さんですが、私が困っているときは良いアドバイスをくれます。母、行徳なつえパウリナは主婦ですがパティシエでもあります。お母さんはお客さんの注文を電話でとって家で美味しいお菓子を作っています。心配ばかりかけている私をお母さんは優しくささえてくれています。弟、行徳政士ロニーは今回同じ県費留学生です。グラフィックデザイナー学科を卒業して、今は九州造形短期大学でアニメーションの勉強をしています。弟の考え方や行動は私よりしっかりしていて私にとって自慢の弟です。

私はクラシックバレエの教師でした。3カ所のダンス学校で大人から子供まで教えていました。毎日忙しかったです。とくに発表会の時期は1つの学校の練習時間とほかの学校との練習時間がかぶらないように必死で時間をあわせていました。また、作品を作る時や練習の時などが一番ストレスを感じていました。

日本は全世界的に一番高齢者が多い国として知られています。私はどのように日本人が健康に気をつけ、対策をしているか、予防、それに対する母国との技術の違いを見つけ、それを自分の仕事にも活用できるようにするために今回福岡大学のスポーツ健康科学部で勉強させていただいています。担当の先生、柿本真弓先生はとても優しい方で毎日私の分までお弁当を作ってくれています。先生の授業は「体づくり運動」と言って、音楽を使いながら運動を学べる授業です。後、「ダンス」の授業も担当です。柿本先生以外の授業も受けています。「バイオメカニクス」の授業は人間の動きをいろいろな機械で分析し、コンピューターデータでどのように評価するかの授業です。もう一つの「ダンス」は柿本先生以外に村上先生と言う女性の方の授業です。とても面白い先生で毎回私と、3人お手伝いをしている学生たちにお弁当を作ってくれます。

福岡県に来てからいろいろな場所に行きました。博多駅、キャナルシティ、天神、福岡タワー、ヤフオクドーム、大濠公園。一番きれいな場所だと思ったのはおにぎり山です。夕焼けの風景がきれいに見えてとても平和な感じがしました。あと、もう一つの気に入った場所は福岡タワーです。いろいろ考えていたものが一気に吹き飛んだ感じがして、とても楽になりました。多分、私は高い所が好きなのかもしれません。

でも良いこともあれば困ることもあります。それは電車やバスの乗り方です。毎回違った乗り物に乗って分からない場所に降りて困ったことがありました。一回地下鉄空港線に乗るはずが貝塚線に乗ってしまって、帰る時間が長くなりました。

これからは福岡県でもっといろいろな体験をしたり、日本の様々な場所にも行ってみたいです。そして日本でしか味わえない料理や、見れないものを見たり、日本ならではの経験をしたいと思っています。

ブラジル福岡県人会  
行徳 政士 ロニー

九州造形短期大学造形芸術学部

## 自分の出身国のこと。福岡に来てから今日までのこと。

僕はここ福岡に留学するために2年間の準備が必要でした。

日本語の勉強は幼いころからやっていました。自分は1歳から3歳まで日本に住んでいて、ブラジルに帰ってからも家では出来るだけ日本語でしゃべるように親からしつけられました。それから日本語学校に通ったり、僕の故郷モジダスクルーゼス市では日系人が多いので日本語で話す機会は少なくはありませんでした。

僕は4人家族です。お父さん、お母さんそして姉と住んでいます。そして犬2匹を飼っています。お父さんはサラリーマンでお母さんは主婦、姉はスポーツ学部を卒業してバレエの先生として活動をしています。そして僕はデザイン学部グラフィックデザイン学科を卒業しました。

僕の人生の中で一番自分の成長を表すとしたら、僕が住んでいる町モジダスクルーゼスの青年部での活動と大学時代です。

モジダスクルーゼスの青年部に6年間通っていました。青年部では副部長や部長として活動を行った経験もあります。そこで得られた経験や知識を今でも活用できおり、特に責任感とリーダーシップについては大変勉強になりました。

大学時代はUNESP大学デザイン学部で4年間勉強しました。バウル市は自分の町からバスで5時間ぐらい離れているので、そこで一人暮らしを始めました。この4年間は長いようで短い期間でした。学んだことはデザインの知識や技術だけではなく人間として大切なことを多く学びました。その一つが「人とのつながり」です。自分は一人では生きていない、周りの人たちがいるからこそ今の自分がある、そしてその人達と力を合わせることで新たな可能性を生み出すきっかけが出来る。卒業した時も感謝の気持ちでいっぱいでした。僕は本当にこの大学に通って良かったと心から思います。

今回の留学の研究内容はアニメーション制作です。自分が描いたものが動き始め、まるで命が吹き込まれたように見えるのが僕は大好きです。

僕がアニメーション・漫画・絵に興味を持ち始めたのは、もちろん幼いころから日本のアニメを見ているのもありますが、そのきっかけは僕が幼稚園の頃のある出来事が元となっています。僕が幼稚園の時、遠足でブラジルの有名なコミック・アニメ会社マウリシオ・デ・ソウザスタジオへ見学に行った時マウリシオ・デ・ソウザさんご自身が生徒たちにこう言いました。「もし自分達を書いた絵があったら僕に見せてください」。当時5歳だった僕はそれを信じて家に帰って親にそれを報告し自分が書いた絵を送りました。親は多分返事は返ってこないだろうと思っていたようでしたが、ある日返事の手紙が来ました。その内容は「絵はとても上手くできています。でも勉強もしないといけませんよ」と言われ、そこから僕は毎日のように絵を描き始め、勉強もやや頑張り始めました。そしていつか自分もマウリシオさんみたいな仕事してみたいと思いはじめました。デザイン学部を決めたのも親の応援とこの出来事がきっかけになりました。

僕は日本に留学するのが以前からの夢でした。だから日本語学校にも通ったり日本語のテスト・コンクールなども幼いころから受けてきました。前は“日本に来ること”が一番の目標でした。でも大学に入って、いろいろな経験をしていくことでその考えも少しずつ変わっていきました。それでたどりついた目標が“日本に留学してアニメーション・映像の勉強をする、そして日本で学んだことを人生に生かす”に変わ



りました。でもそう簡単に達成できるものではありませんでした。でもいつかチャンスが来ると信じて日本語の勉強をやめず日本語能力試験N1級にも合格することが出来ました。そこで現れたチャンスが福岡県移住者子弟留学生の試験でした。その情報が始めて耳に入った時はまだ大学生だったので多分無理だろうとは思いましたが、希望できる大学や専門学校を見て自分が望んでいた学科があったので本当に受かりたいと思いました。自分の中ではこのチャンスは絶対に見逃せないと思っていました。始めは応募者の中では僕が一番状況的に落ちやすいと思っていました。なぜなら姉もその応募者の一人で、当時その中では多分僕だけがまだ大学生だったからです。でもやってみないと分からないしこのチャンスは絶対掴み取りたいと思って試験を受けました。その結果、嬉しいことに受かりました。それからブラジルの大学を見事卒業でき福岡県移住者子弟留学生として福岡に来ることが出来ました。このチャンスを与えてくださった皆様には心から感謝しています。

僕は福岡に来てからいろいろな出来事や体験をしました。嬉しいことや困ったこと、驚いたことなど数多くありました。福岡に来てすぐ驚いたことは日本では電車の時間がきっちり守られていて、ほとんど一分たりとも遅れないことです。その日本人の時間への厳しさは大変参考になります。

僕は日本について食べ物にはちょっと困りました。日本食には問題ありません。母国でも自分の家庭では基本日本食なので食べるには困りませんでした。やはりブラジルと比べると日本の食べ物・食材は値段が高いです。お肉や野菜や果物などがブラジルのほうがもっと安く買うことが出来ます。その点ではブラジルのことがちょっと恋しくなりました。でも日本の食べ物はとても美味しいです。特に日本の白ご飯は最高です。

福岡についてからたった2ヶ月少ししか経っていないのに嬉しいことは山のようにあります。今年福岡県移住者子弟留学生として来ることができて本当に良かったと思える出来事が多すぎて本当に幸せです。大学では友達が出来ましたし、素晴らしい先生のご指導も受けています。楽しい授業も受けています。たまにソフトの使い方も教えたりもしています。一番嬉しかったことは、ある授業の課題でRKBのテレビ局を見学し、そのディレクターさんやスタッフ達と会話できたことが一生の思い出になりました。どうやら先生も授業で生徒たちを連れてテレビ局に行くのは初めてだったそうです。

寮で一番嬉しいのは、違う国から来た留学生たちと寮に住んでいる日本人達との交流です。やはり文化の違いはとても面白いです。言葉や文化の違いで日本人達と一緒に面白い話がたくさん出ました。

また、家族会の方々と会って本当にいろいろな楽しい体験をさせていただきました。ホームステイ、温泉、食事、バーベキュー、会話、スイカ割りなど楽しい企画をしてくださった家族会の皆様やセンターに心から感謝しています。

福岡に来て九州造形短期大学で勉強させていただいているので、出来ればアニメーションの勉強だけでなく、ここでしか出来ない体験をしたほうが良いと考え、日本文化そして日本人の生活や考え方に触れ合うことで自分自身も成長していくんじゃないかと思いました。

僕の一年間の目標はいろいろありますが、一番は楽しむことです。大学へ行く楽しさ、友達を作りそして過ごす楽しさ、文化の違いを知る楽しさ、おいしいものを食べる楽しさなど。知るそして感じる楽しさ。楽しむことで僕のほぼ全ての目標が達成されると信じています。

僕が“22年の準備が必要だった”の意味は“人生でいろいろな経験や人の出会いや支えがあったから今の自分がいて、今の自分ならこの一年を満足に終えることが出来る”と自信はあります。勿論、僕はまだまだ未熟者ですし学ぶことは数え切れないほどあります。だから学ぶことに楽しみを感じられるのかもしれないかもしれません。できるだけ多くのことに挑戦することで自分は少しずつ成長していくと信じています。

“人生の成功の秘訣はチャンスが来たときにそれに対する用意ができていることである。” (Benjamin Disraeli、19世紀イギリスの政治家・小説家)



ブラジル福岡県人会  
重エリッキ和男

九州大学大学院人間環境学府

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

私は小さい町で生まれました。ロレーナ市と言います。父の出身はサンパウロ市で、母はロンドリナ市、ブラジルの南の地方の町です。父は教授で、仕事のために、結婚した後で、二人はロレーナに引っ越ししました。その町で私と兄弟が生まれ育ちました。しかし、ロレーナに親族はいませんので、子供の時から、よく旅行をしました。その時、サンパウロはロレーナから近く200kmぐらいだったので2ヶ月に1回ぐらい行きましたが、ロンドリナはすごく遠く700kmぐらいだったので、一年間に2回だけ行きました。サンパウロの祖父母の二人はもうなくなりましたが、生きていた時に二人はポルトガル語を良く話しました。でも、ロンドリナの祖父母がポルトガル語をあまり話せませんので、コミュニケーションは大変です。それが、日本語の勉強を始めた一つの理由です。そして、来年帰国する時、祖父母と日本語だけで話す約束をしました。兄弟もいとも日本語が全然話せませんので、いつも私が日本語の言葉や文などを話すと、祖母がすごく嬉しがりです。日本へ留学することを伝えたとき、家族の皆がすごく嬉しがり、誇りに思ってくれました。残念ながら、去年留学の試験を受ける前に、福岡県出身の祖父がなくなりました。その前に僕は祖父と一番上の姉と一緒に住んでいました。祖父は二重国籍で「ブラジル人と日本人」でしたが、日本へ来たことがありませんでした。81歳まで働いていて、休む時間があまりありませんでしたので日本へは行きませんでした。時々、いつか日本へ行きたいと言っていました。もし、まだ生きていたら、私が日本にいるので、多分祖父も来て、私を訪問できたと思います。本当に残念です。日本へ来る前に一番上の姉と2人だけで住んでいましたが、両親がよく訪問してくれました。

子供の時から、私は日本文化が好きで、いつか日本へ行きたいと思っていました。だから、私は今日本にいるので夢が叶えられています。日本語はまだ上手ではありません。困った事は、日本語が分からないことです。いつもだれかと話している時に何か分からなかったら、すみませんと言って、恥ずかしくなります。日本に来る前に一番怖かった事はコミュニケーションの事です。ブラジルで日本語を二年間ぐらい勉強しましたが、私は力を入れて勉強をしていませんでした。去年一生懸命勉強し、日本語能力試験の三級を受けましたが、合格しませんでした。ブラジルでは日本語学校でしか日本語を使いませんでしたので、上達は遅かったです。日本に住む事は日本が上手になる一番いい方法だと思います。日本に来たからの二ヶ月半の間、少し日本語が上達しました。それでも、たいていの会話はまだ難しいです。忍耐は必要ですが、忍耐を持っている人ばかりではありません。だから、何か話したいけれども、日本語でどうやって言うか分からないので、何も言わない場合があります。大変な時もあるけど、日本の生活はすごく面白いです。困難は自分が強くなるために、大切です。さらに、今まで、素晴らしい人に会って、たくさん友達を作っています。これらの人々は困った時に手伝ってくれて、感謝しています。

大学の勉強は日本語なので難しいです。しかし、担当の小山先生はすごく優しいので、英語が話せる方ではありませんが、私が理解できるように英語でも説明してくれます。そして、小山先生の研究はコンクリートですが、私の研究の目標「木造住宅の工法」のために、見学に連れて行ってくださったり、講演を聞かせるために建築家を招待してくれたりしました。さらに、毎週研究室の人たちを集めて、ゼミで自分の研究を発表します。私は今週始めて発表します。

この二ヶ月半、いろいろな場所へ行きました。自分一人や、他の留学生と、家族会の人とも、素晴らしい所に行きました。福岡はすごくきれいな場所だと思います。そして日本はブラジルより安全なので、どこへ何時行っても全然怖くないです。私の好きな場所の一つは寮の近くの香椎浜です。たいてい、夕焼けの時にその浜へ走りに行きます。

今までの福岡での経験は素晴らしいものばかりです。私はここにいられる事を非常に感謝しています。私の家族、ブラジル福岡県人会、福岡県庁、福岡県国際交流センター、家族会、そして私を助けてくれたすべての人、本当にありがとうございました。家族、友人をブラジルに残し留学することは容易ではなかったけれど、私の人生で最高の経験です。これからも、この素晴らしい経験が続けられるよう頑張ります。



ペルー福岡クラブ  
タケシタ クリスティ

九州産業大学芸術学部

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

ペルーと日本の生活は少しちがいます。ペルーではインテリアデザインの勉強をしています。インテリアデザインの勉強は大変ですがとても楽しいです。毎週ミニチュアを作って、時々時間がないときは、前の日に徹夜をして準備します。自由な時間がある時はテニスをします。5歳からテニスをしているので、それは私の一番好きなスポーツです。

家族は母（ベアトリス）、父（エンリケー）と兄（ケージ）です。母は50歳で、主婦です。母は日本語を上手に話します。私も彼女と同じように上手にしゃべりたいです。父は53歳で自分の会社を経営しています。牛肉の会社です。兄は29歳で建築家です。家族もテニスをしています。父は週に3回テニスをしに行きます。

私が福岡に行きたいと思った理由は、私の先祖のことをもっとしりたかったからです。私は4世でペルー生まれですから、私の祖父母の生活と文化のことを習得したいのです。日本の歴史や文化を日本で習うことができるので、これは私にとってとても大切な経験になると思います。それと、ペルーの文化と違うので、それをペルーの人たちに話したいです。

福岡に来てからいろいろな楽しいことをしました。これまでに、宮崎と熊本に行ってきました。宮崎で身元保証人に会って、青島神社と グラスの展覧会を見に行きました。そして、大学の留学生と一緒に熊本で農園に行きました。そこで、アイスクリームを初めて作りました。すごく楽しかったです。

福岡では九州産業大学にいます。私はこの大学がとても好きです。あまり日本語が話せませんが、ここに来てたくさんの友達ができました。皆とてもしんせつで、私が困っている時いつもたすけてくれます。初めは日本人はあまり話をしないなどおもっていたけれど、今はよく話をして、スペイン語をおしえてくださいと言う友達がたくさんいます。大学の英語グループでいろいろな国の留学生に会うチャンスがあって、今は韓国、インド、中国やイギリスの友達ができてとても楽しいです。

福岡に来てから、驚いたことが多いですが、一番驚いたことは、サービスがいいことです。ペルーは、店員さんはほとんどの人が優しいですが、あまり丁寧ではない店員さんもいます。ですから、日本の店員さんを初めて見た時、とてもびっくりしました。日本の店員さんはいつもニコニコしていて、優しい声で丁寧な日本語を使います。そして、丁寧に接客します。この前、買い物をした時、いろいろな店でたくさん買って、荷物が多くなりました。次の店で、レジの店員さんは、私の荷物を見て、「まとめましょうか」と言いました。その店員さんは私の荷物を大きな袋に入れてくれました。私はびっくりしましたが、嬉しかったです。ペルーでは、このようなすばらしいサービスがないと思います。

日本で好きなことはたくさんあります。日本人はとても親切です。日本人は人が困っている時いつもたすけてくれます。何をしてでもたすけてくれます。それと、日本料理

が大好きです。福岡に来て初めてお好み焼きと博多ラーメンを食べました。とても美味しかったです。

日本に来てあまり困ったことはありません。少し困ったこと車の走る方向です。ペルーでは逆なので、今でも時々道を渡る時は、初めに左側を見ます。そして、トイレに少し困りました。洋式トイレをいつも使っているので初めはあまりなれないから不便でしたが、今はだいじょうぶです。

今年の目標は日本語をよく学習して、日本語で会話をするようになることです。あまり日本語が話せませんので、時々困難だと思っています。日本語が上手く話せたら、もっと日本人の人たちと会話ができることでしょうか。そして、私の先祖のことをもっとしらべたいと思います。それも、今年の大切な目標です。私の親戚の人たちにあって、話をして、祖父母が生活した所に行ってみたいです。初めて会うので、ワクワクしています。



コロンビア福岡県人会  
エルナンデス 黒木 なつみ バネッサ

折尾愛真短期大学経済学部

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

### 母国での生活や家族のこと

私の母国はコロンビアです。私の産まれた街カリを紹介します。

私の家は、父と母と、いとこと、4 人ですんでいます。私の母方の祖父母は福岡県出身です。コロンビア人の父と母が結婚しました。

コロンビアでは、大学でビジネスを勉強し、4年間 Colombina S.A という会社で働きました。

私のおじいちゃん、おばあちゃんは戦争のときコロンビアへ移住しました。

私と私の母がコロンビア福岡県人会にいるのは、母のしんせきが日本にいたからです。

福岡県人会はコロンビアで日本からの移民の人たちのえんじょをするためにせつりつされました。現在の県人会は、福岡のしそんである私たちと福岡を近づけることと、日本のでんとうのいじ、そして日本と私たちのそせんの国が平和でありつづける事をもくてきてしています。

私は今、私と同じようなルーツを持つ県費留学生のグループにしよぞくしてます。これからも、福岡県と県人会が、より良いかんけいもちつづけてほしいです。

### なぜ福岡県移住者子弟留学生になりたかったのか

ことしは 私は日本文化を勉強したいです。そしてマーケティング戦略の勉強をしたいです。それに日本語も勉強します。日本語がじょうずになりたいです。日本人のともだちがほしいです。そして友達と過ごす時間を大切に、くいの無い一年間にしたいと思います。

### 福岡に来てから今日までのこと

日本に来てから今日まで私はうれしいことばかりです。日本はたのしいです。いろいろなきれいな場所に行きました。いろいろなたべものもはじめてたべました。

このまちは、とてもきれいにせいらされています。私にとって福岡県はいなかでもとかいでもなく落ち着ける場所です。道ばたにゴミも無くとっても素晴らしいと思います。そして人々はともしんせつでていねいです。

### 福岡に来て嬉しかったこと

学生生活はたのしいです。日本語はむずかしいです。まいにち日本語の勉強をがんばっています。

りょうりのなかでおすしがいち番好きです。日本ではたくさん食べることができるので、とてもうれしいです。

今年は私の家族にあいます。私は大阪と茨城などに家族がいます。

なつやすみに大阪へいきます。大阪にはいろいろなゆうめいなところがあります。たとえばユニバーサルスタジオジャパンや大阪城やすいぞくかんなどがあります。たのしそうです！

そしてわたしの家族と一緒に東京にいきます。東京ディズニーランドはせかいで有名な

テーマパークだからです。

#### 困ったこと

私が困ったことは電車にのることです。コロンビアには電車がないのでなれるまで時間がかかりました。日本にいったことがなかったので、ふあんでした。来日したばかりで、時差ボケのときに、電車の乗り方、特に乗りかえの時に迷ってしまい電車に乗り遅れた事がありました。

#### おどろいたこと

おどろいたことは福岡県の人々の親切さです。困っている時は助けてくれます。

#### 今年のもくひょう

日本文化をもっとしり、日本語の勉強を頑張って日本人のともだちと日本語でかいわができるようになりたいです。

そして、マーケティングの勉強をして日本とコロンビアのちがいをみつけてコロンビアのマーケティングをよくしたいとおもっています。



ボリビア福岡県人会  
川波直美

九州観光専門学校カフェ&スイーツ科

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

ボリビアから来ました平成26年度福岡県費留学生です。ボリビアは南米の中心部に位置しています。多くの自然に囲まれています。県によって気候が違います。私は、サンタクルス県イチロ郡サンファン市サンファン日本人移住地で生まれました。福岡県から移住して来た祖父たちの苦労のおかげで現在のサンファン日本人移住地があります。サンファンでは、農業と養鶏が主な産業活動です。

私は、8人家族です。父は川波明58才です。仕事は養鶏をやっています。母は川波愛子54才、主婦です。6人兄弟です。私は4女です。長女アサミ、2女ユリ、3女美保、長男一幸と5女の幸恵。姉3人は日本で仕事をしています。兄は父の仕事の手伝いをしています。妹は勉強しています。中学2年生です。今は家族バラバラですが将来はボリビアに戻ります。

私は、日本に来る前まではサンファン日本ボリビア協会で窓口と会計の仕事をしていました。月曜日から金曜日まで午前8時～12時と午後2時～6時まで働いていました。週末や時間がある時は料理やお菓子を作っていました。趣味はスポーツと音楽を聞くことです。

福岡県移住者子弟留学生になりたいと思ったのは、祖父の母国や日本のことをもっと知りたいと思ったのと、兄の影響も少しありました。兄も2年前に福岡県費留学生として来て、話を聞くと県費で来た一年はいろいろな事を学ぶと同時に楽しく素晴らしい一年間を過ごしたと言っていました。それで私もチャンスがあれば日本（福岡県）に行ってみたいと思いました。

県費留学生として日本に来られてとても感謝しています。日本に来て驚いたことは、時間をきちんと守り、道ばたにはゴミの数が少なく、電車に乗る人の数にもびっくりしました。困ったことは、電車の乗り場がわからなくて迷ってしまい電車に乗り遅れたことと、漢字の読み書きができなくて、学校での授業がほとんど分からなかったことです。嬉しかったことは、はば広く県費留学生、家族会、日本人や外国人の友達がたくさん増えたことです。それと専門学校で初めて自分で製菓を完成できたことです。

日本に来たばかりの頃は、新しい生活で皆と上手くやって行けるのかが不安でした。でも自分が思っているよりも早く日本の生活に慣れました。もちろんボリビアに居る父親や友達に会えないのは寂しいです。でもその分日本でもたくさん友達ができると寂しく無くなりました。専門学校の同級生はほとんどが歳下です。でも歳は関係なく毎日楽しいです。先

生の説明が分からないときや漢字が読めない時は手助けをしてくれます。皆優しい人ばかりです。今では一緒に勉強をしたり、食事や買い物に行くようになりました。学校以外でも友達ができました。いろいろな行事や交流会に参加すると友達の輪がすごくひろがります。

1年間の目標は、日本文化をもっと知ること、専門学校で製菓作りをきっちりと学んで、自分の日本語を向上させたいです。授業や友達との時間を大事に楽しく過ごしたいと思います。



メキシコ福岡県人会  
棚町ヘラルド

九州大学大学院地球社会統合学府

## 自分の出身国の事。福岡に来てから今日までのこと。

僕は棚町ヘラルドと申します。父は日系メキシコ人の3世で、母の祖父母はメキシコとアメリカの出身でした。両親は歯医者です。僕は弟が1人います。産業工学者として働いています。全部で、伯父が3人、伯母が4人、従兄弟が7人、従妹が1人います。父方の祖父は10年前に亡くなりました。歯医者でした。祖母及び父の姉と妹は、祖父が作った歯科器材店をしています。

祖父は結婚する前に15年間ぐらい福岡県に住んでいて、若い時からメキシコ福岡県人会で活躍しました。僕は子供の時から家族と一緒に県人会の活動に参加して、メキシコの福岡県移住者子弟留学生に会って、留学に興味を持ち始めました。

メキシコ国立自治大学の化学部で物理学を専攻し卒業しました。物理学の歴史が専門です。ほかに、音楽と英語、スペイン語の翻訳を勉強しました。来日の前には、翻訳者と音楽家及び数学と物理学の教師として働いたり、メキシコの物理学の歴史について研究したりするの事に時間を割いていました。

大学の研究では、メキシコは凄い自然景観や天然資源や文化的な遺産がたくさんあるけれど未発達の科学技術及び社会問題があって、貧しい人が多い国になったことを習いました。社会福祉は、科学技術と大いに関係があると思います。一方、日本は先進科学技術を持つ国として知られているので、メキシコの科学技術の進歩の研究に応用できるような知識を学ぶために、日本の科学技術の進行過程について研究したかったのです。この過程の一番大切な一歩は明治時代に行われたそうです。

福岡にはいい大学があるので、移住者子弟留学生として、自分の研究の目的も達成することができると思いました。今、九州大学大学院地球社会統合科学府、ホール・アンドリュウ先生のもとで、自分がしたかった研究をして、日本と東アジアの近代の歴史の授業も受けています。これに加えて、自分で歴史を勉強しているので、日本の文化の理解はしやすくなると思います。その他、邦楽部に入部して、尺八をやっています。大学では、学校及び課外の活動で、たくさんの事を習ったり、色々な学部の友達ができました。全てが楽しいです。

僕は日本語が下手なので、伝えるのは少し大変です。けれども、優しい人に手伝ってもらって、困ったことはありません。また、4月から日本語を勉強して、少し上達していると思います。とにかく日本の生活に慣れてきています。メキシコでは大都会に住んでいましたが、福岡市の生活にしています。でも、福岡市は、メキシコより近代的で便利で秩序と清潔感があって、住みやすい所です。

今日までに大学や寮や県費留学生の友達や家族会の人と一緒にいろいろな面白い体験がたくさんありました。日本の日常生活や故事や自然や料理や芸術やパーティ等を知ることができました。僕は大学で自分の専門に進み勉強ができ、家族の故郷である日本の生活と文化を知ることができ、また日本人と留学生と暮らすことが出来て嬉しいです。そして、残りの9ヶ月も楽しみです。

アルゼンチン福岡県人会  
津留 アナ パウラ

九州大学大学院歯学府

## 自分の出身国のこと。福岡に来てから今日までのこと。

私の祖父母は、仕事を求めてアルゼンチンに移住しました。私のお父さんの両親は福岡（祖父）と高知（祖母）に生まれました。私のお母さんの両親は沖縄で生まれました。祖父のおかげで日本の素晴らしい文化に会う機会を持つことができます。私が福岡に来る前に、私の祖父はこの世を去りました。私にとって大切な人だったおじいちゃん！この機会にめぐりあわせてくれてありがとう！！

アルゼンチンでは両親と妹2人と一緒に住んでいます。お父さんは歯医者や歯科技工士や大学の先生です。私と妹が生まれたときお母さんは家事をするために主婦になりました。妹は今、大学生です。真ん中の妹は大学三年生で化学の学位の勉強をしています。一番下の妹は大学一年生で文学の勉強をしています。

私は2010年に歯科技工士の学校を卒業しました。その後、お父さんと一緒に働きました。月曜日から金曜日までいつも8時から13時まで働いて、家で昼ご飯を食べて、15時から20時30分まで働いて家に帰りました。たくさん仕事があるときは、もっと遅く家に帰りました。土曜日に彼氏と散歩しました。日曜日におばあちゃんの家にもあそびに行きました。

おじいちゃんの育った国はどんな場所なのかや、もっと日本文化、日本語も学びたいです。そして日本文化(食べ物、スポーツ、教育、休みの日はなにをするかなど)とアルゼンチンの違う点について知りたいです。もちろん、私の仕事を向上させる技術や技法も知りたいです。

今の福岡での生活は、今までの人生とは全く異なっています。いつも両親や妹と住んでいました。代わりに、私は県費留学生やほかの学生達(日本人と外国人)と一緒に住んでいるので、新しい家族と一緒に住んでいるようです。誰かが困っているときはいつでも助けてくれる人がいます。寮ではその時いるグループで食事をします。私は料理を作るのが下手です。でもみんな、私に教えてくれます。そして、自分で洗濯をしてアイロンを使って、たいへんでした。すべては私が人として成長し、成熟するために必要なことだと思います。

アルゼンチンでは車を運転しますが、福岡では、公共交通機関(電車、地下鉄、バス、自転車)を使います。日本では公共交通機関で移動する方が便利ですので、それも素晴らしい経験です。私が自転車で散歩に行く場所は、静かな場所で安心です。日本で感動をしたことは時間がきちんとまもられていて、いどうするには便利です。アルゼンチンではありえないことです。

大学で毎日何か新しいことを学びます。私がまちがった日本語を話したとき、先生たちは正しく直してくれます。先生たちとよく日本語をまなびます。私が何か分からないとき、先生たちが私にいろいろな方法で説明してくれます。時々、先生たちと一緒に夕食を食べに行きます。本当に感謝しています。私はまだ、生の魚を食べることに慣れることができません。

この一年間でたくさんともだちをつくりたいです。日本の文化をもっとまなび日本語を上手に話せるようになりたいです。大学で新しい技術を学び、アルゼンチンに帰って活用したいです。

この一年間たくさん思いでをつくりたいです。